2026 年 11 月 26 日

日本初となるマレーシア産バイオメタンの輸入について
～ペトロナス社との協業を通じ、化石代替燃料の調達先と輸入ルートを多様化～

東京ガス株式会社

東京ガス株式会社（社長：笹山 晋一、以下「東京ガス」）とマレーシア国営エネルギー会社 Petroliam Nasional Berhad（以下「ペトロナス社」）は、日本初となるマレーシア産バイオメタンの輸入を共同で実現しました。11 月 22 日、東京ガス扇島 LNG 基地において、気体換算で約 4 万 m^3のバイオメタンを受け入れました。

本取り組みは、本日発表したペトロナス社との「LNG の安定供給および脱炭素分野等における戦略的協業に関する覚書」*1 に基づく、脱炭素分野における最初の具体的な取り組みです。両社は長年にわたり日本への安定的な LNG 供給を担ってきたパートナーであり、本取り組みを通じて今後も連携を強化していきます。



扇島 LNG 基地における揚荷役（11 月 22 日）

東京ガスは、2024 年に米国から初めてバイオメタンを輸入*2 しました。今回、北米に加えてアジア地域からの輸入を実現したことで、グローバルなバイオメタン調達ポートフォリオの構築に向けて前進しました。今後もバイオメタンをはじめとする化石代替燃料の調達先と輸入ルートの多様化を進めることで、日本のエネルギー需給構造の強靭化に貢献していきます。



ペンゲラン LNG 基地における積荷役（11 月 5 日）

今回輸入したバイオメタンは、農業廃棄物から発生するバイオガス*3を回収・精製し、メタン濃度を高めたものです。廃棄物を有効活用できるほか、化石燃料の代替として利用することにより、温室効果ガスの排出量削減が期待されています。また、主成分は都市ガスと同じメタンであるため、既存のLNG・都市ガスインフラを活用でき、追加的な社会コストの抑制につながります。

海外から輸入したバイオメタンに関する排出削減価値の割り当てについては、国の審議会等において、必要な法令改正やマニュアル整備を行い、SHK制度*4において2026年度実績から適用することを目指して検討が進められています。また、SBTi*5においては、企業のネット・ゼロ目標に関する基準の改定が進められており、GHGプロトコルなどの国際基準に基づくバイオエネルギー分野の取り扱いについて整理が進められています。東京ガスは、こうした制度動向を踏まえ、お客さまの脱炭素ニーズに応えられるよう、サービスの構築に向けた取り組みを進めていきます。

東京ガスは、今後もグループ経営ビジョン「Compass2030」で掲げる「CO_2ネット・ゼロへの挑戦」および「カーボンニュートラルロードマップ 2050」に基づき、再生可能エネルギー、e-メタン、バイオメタン、水素、CCUSなどの打ち手を組み合わせ、国内外のさまざまな事業者との連携を通じて、カーボンニュートラル社会の実現に貢献していきます。

＊1：東京ガスプレスリリース（2026年11月26日）「ペトロナス社とのLNGの安定供給および脱炭素分野等における戦略的協業に関する覚書の締結について」
＊2：東京ガスプレスリリース（2024年3月22日）「カーボンニュートラル社会実現に向けた海外産バイオメタンの輸入」
＊3：有機物が酸素のない環境でメタン発酵することにより発生する、メタンやCO_2を含む混合ガス
＊4：「地球温暖化対策の推進に関する法律」（温対法）に基づく温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度
＊5：国際的な気候変動イニシアティブ「Science Based Targets initiative」

以上